

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790300743		
法人名	社会福祉法人 心愛会		
事業所名	ハーモニーみどりヶ丘ソレイユ		
所在地	福島県郡山市緑ヶ丘六丁目26番地1		
自己評価作成日	平成30年12月6日	評価結果市町村受理日	平成31年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成31年1月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・四季折々の花を觀賞できる。 ・介護福祉士を所持している職員が多い。 ・月に3回のミュージックケアを実践している。 ・心愛会スタッフの結束力がある。 ・日頃からの着実な仕事を確認しつつ良い方向に改善していければよいと思う
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ol style="list-style-type: none"> 1. 職員が日常的にかかわる中から利用者状態や意向について確認し、気づきを毎月話し合っている。それらを踏まえ3か月毎モニタリングが行われ現状に合ったケアプランが作成されており、根拠に基づいたサービスが提供されている。 2. 利用者のケアや行事等について、職員会議で話し合いが行われ、職員の意見が運営に反映される仕組みが出来ており、意見を言いやすい風通しの良い職場環境が作られている。 3. 野菜の皮むきやお盆拭きなど利用者のできる事を、継続して行えるよう支援している。職員が感謝の声掛けを行い利用者の張り合いになっている。食事の声掛けもゆっくり美味しく食べられるような雰囲気づくりに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	申し送り時、開始前に理念唱和を実施している。	職員の入職時に法人理念や行動基準等を記した理念手帳を配布している。また、職員で話し合って地域密着型の意義や尊厳、暮らしを大切にする事業所理念を策定し申し送りや職員研修時に唱和し共有し実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で開催されるクリーンアップ作戦に参加している。	地域の清掃に参加したり、法人内の近隣施設と合同で開催している夏祭りに地域の方の参加を呼び掛けている。また、地域でオレンジカフェを立ち上げる予定があり、話し合いに参加し介護の相談会や勉強会を行う検討をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	オレンジカフェ事業を今年度から実施できるように、地元の関係機関と検討している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	困難事例や問題解決にむけて、問題解消や改善提案について助言をいただいている。	参加者は地域包括や近隣地域の区長、民生児童委員等で定期的に開催している。会議では運営状況やヒヤリ事例、行事のほか困っていることも話し合い運営に活かしている。なお、利用者や家族の代表は入っおらず、次年度から利用者、家族代表に参加してもらう予定になっている。	利用者や家族に会議への参加を積極的に働きかけ、より利用者本位の運営につながるよう期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政と直接的な相談や検討会は実施していないが、各種申請手続きや問合せなどに対して回答ややり方について助言をいただいている。	市の担当とは随時相談や情報共有しており、12月に実地指導があった。月2回市の介護相談員を受け入れ、利用者や職員とコミュニケーションを図っている。年1回の介護相談員受け入れ事業所と市、相談員の三者会議に出席している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を定期的開催し、コンプライアンスルールに乗っ取った勉強会を行っている。	施設内で身体拘束廃止委員会を設け、勉強会を行っているほか、法人のコンプライアンス委員会の指導を受けている。また、年2回職員に対して不適切ケアのチェックを行い振り返りを行うなど適切なケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部法人の勉強会に参加し理解をしている。アンケート調査を行い、虐待が看過されていないか注意、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特に実施していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い、ご理解を頂いており、質問や相談を受けた場合には、随時回答や説明を行いご理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は今年度12月に開催予定している。また、面会に来所した際、生活状況を説明するとともに、家族からご意見を頂くように努めている。	12月に家族会を行い、施設での生活についてアンケートを実施した。結果については書面で家族へ伝達している。その他、日常的に利用者、家族の意向を確認しており、利用者の希望に沿って家族の協力を得られるよう働きかけを行う等している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度職員会議を開催し、意見や提案を求め検討している。必要なことは随時、スタッフへ共通理解として周知している。	月に一度職員会議を開催し、利用者のケアの他行事等について話し合い、意見を取り入れて実施している。また、2か月に1度職員の目標管理の面接を行っており、管理者や法人職員が職員からの意見を聴取し、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	随時、または定期的(2ヶ月に一度)本部職員がヒアリングを行って、スタッフから意見や悩みを聞き取り、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部研修に参加できる機会をつくり、スキルアップにつなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内の各事業所職員の交流会は、年に一度開催している。又、内・外部研修に参加し、意見交換等を行い仕事に対する意識向上につなげている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員とお客様との関係づくりで気がかりな事、課題となることについては、随時または、定期的に検討会を開催している。又、お客様の困りごとをいち早く把握できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査時家族やご本人から要望や意見を伺い、プランに反映させケア提供につなげられるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査時に具体的なアセスメントを行い、意向や要望を聞き取り、適切なケア提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族へは、随時または必要時に近況報告を行い、ご本人が利用しやすい環境づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と密に連絡をとり、本人が安心した生活を継続できるように、家族が協力態勢をとっていただけるようお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔ながらの友人、知人、親族の面会や連を柔軟に受け入れている。	家族や友人等の面会を受け入れている他、利用者の意向を確認し、家族の協力を得ながら馴染みの美容室や墓参り等の外出に結び付けている。自室には家具等を持ち込むことができる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話しやすい環境づくり、相性などを配慮して席を随時決めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した利用者のご家族へは連絡をとり、他のご家族様の情報を収集している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的(3か月ごと)にモニタリングを行い、家族や本人から意見や要望を聞き入れ、評価を実施している。	毎月の職員会議でケアプランが現状に合っているか確認しながら3か月毎モニタリングを行っている。職員が日常的に関わるなかから利用者や家族から意向を確認している。利用者の希望を日々のケアや行事、外出に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメント時に、どんな仕事に従事していたか、趣味や特技があるかを聞き出し、ケアプランやかかわり方に反映している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、バイタルチェックを施行し、体調管理を行っている。顔色や行動観察に注意して、いつもと様子が違っているときや、生活意欲低下が疑われるときには、看護師から意見を聞き、スタッフへかかわり方を共有し、善後策を講じている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別介護計画書を作成し、スタッフへどのようなケアを提供していくか3か月ごとに実施している。	月1回の職員会議や3か月毎のモニタリングで、利用者の状態や希望、家族の意向をしっかり捉えている。また、ケアプランの達成状況も評価している。3か月毎に現状に合ったケアプランが作成され、日々の介護が提供されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月に一度、会議を開催し、お客様のケア提供について現状維持か見直しが必要かどうかの検討を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	福祉用具のレンタルや購入及びパッド、オムツ、防水シーツの整備が必要と思われる場合には、家族と連絡をもち、検討している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	包括支援センターや病院等の医療連携室、最寄りの居宅介護支援事業所と連絡をとり、情報収集に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族が通院の付き添いや送迎が困難な家族には、訪問診療ができる医療機関を紹介している。	多くは家族の協力でこれまでのかかりつけ医に受診しているが協力が困難な利用者は往診医を紹介している。受診は生活状況報告書で伝えるほか必要事項は看護師が主治医と連携を取っている。受診結果は家族から報告を受け情報を共有しながら適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護スタッフと看護師の連携で体調管理に努めている。服薬指導や管理についても助言を受け、お客様の健康維持に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、担当となったSWと密に連携をとり、家族の同意の下、円滑な手続きや行動がとれるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	お客様の状態が重度化し、食事、水分量の摂取が減退してきた場合に、状況を報告し担当医を交えて、終末期における介護と医療の家族の意向を尊重し、介護態勢をとっている。	入居時に看取り指針で重度化した場合の対応方針や内容について説明し、同意を得ている。ターミナルケアの内容についても説明し理解を得ている。家族の意思を尊重しながら対応できるよう取り組んでいる。看取り支援についての研修はまだ年間計画に入っていない。	開所後まだ日が浅く、看取り介護は行っていないが、職員全員が看取り支援について理解し対応できるよう研修を通じて準備していくことが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの使い方を習った。急変や事故発生時に備え勉強会や日々の業務の中で確認するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震災害等での避難訓練は実施している。12月に総合防災訓練を実施する予定。	夜間想定総合訓練(1回)、県や市の大規模災害訓練実施に合わせ(年2回)、避難通路確認等実施している。災害訓練消防計画では毎月訓練となっているが、計画通り実施できていない。事業所は同一法人の他施設と隣接しており、災害時の協力関係は築かれているが地域住民との連携は築けていない。災害備蓄は十分なされている。	職員全員が対応できるよう訓練を重ねることや総合訓練へ市の消防の参加を引き続き働きかけることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様への言葉かけ、かかわり方、排泄時のプライバシー確保において、自分自身もされては嫌なことはしないような対応に努めている。	理念に尊厳を掲げ、チェックリストで振り返りをしながら尊厳やプライバシーを損ねない言葉かけに取り組んでいる。事業所内で研修を行い、理解を深めながらお互い注意し合う関係が築かれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフ側からの押し付けではなく、本人の意向や要望が自然と出やすいように言葉かけ、言葉遣いに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調に応じて、その日にやりたいこと、やってみたいことを聞き出し、実現できるように支援態勢をとっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	パジャマと普段着の区別を行い、日中は自分で選んだ服を身にまとい、就寝時にはパジャマに着替えている。訪問理髪を希望しているお客様には散髪を紹介している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	スタッフとお客様は同じメニューの食事を摂食している。食事中はお話を楽しんだりゆったりと食事を楽しむ工夫をしている。	野菜の皮むきやお盆拭きなど利用者のできる事を継続できるよう支援している。利用者も職員から感謝の言葉を掛けられ、張り合いになっている。声掛けやゆっくり食べられるよう雰囲気を作るほか外食も取り入れ食事を楽しむ工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事形態を把握し体調に配慮しながら残差物がないように、かかわりをもっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の排泄状況を把握し、できるだけトイレで排泄できるように、定時誘導をまたは随時誘導に取り組んでいる。	排泄記録を見ながら声掛けする他食事の前後、朝夕など本人の排泄パターンに合わせ誘導している。出来るだけトイレで排泄できるよう支援を行い自立につながるよう取り組んでいる。夜間はポータブルトイレの利用や厚めのパットを利用し安全や安眠を妨げないよう対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録を作成し、お客様が苦痛になる前に予防や対策を講じている。又、必要に応じ主治医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2回は入浴できる態勢をとっている。	入浴は3日に1回を目安に支援している。入浴拒否に対しては、お風呂の側のトイレに誘導し、ついでお風呂に入る流れを作り入浴につながっている。浴槽は大少二つあり、仲の良い友達同士で大きい風呂に入ったり、歌を歌ったりユズ湯や入浴剤を利用し入浴を楽しめる支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に応じて、居室で仮眠をとれるようにしている。又、日中に活動することで夜間帯にゆっくり休めるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の指示の下、服薬を施行し、スタッフはお客様一人ひとり体調を観察し介護記録に記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割が持てるように、洗濯ものたたみ、テーブル拭き、おそうじを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節感を味わってもらえるように、四季折々にふさわしい外出を行っている。	法人のバスを利用し花見、紅葉、菊人形、三春ハーブ園見学など季節毎外出し、花や自然を楽しんでいる。また、敷地内を散歩し花壇の花や野菜を眺め気分転換を図っている。家族の協力で外出する利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出支援時に、立替で買い物や飲食時に使える機会を作れるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特に実施していないが、事務所の電話を利用し、家族や知人と話す機会が作れるように努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を飾ったり壁画を変えたりして季節感をだしている。	エアコン、加湿器があり空調を行い快適な環境にある。天窓もあり自然光で、明るく、広々とした共有空間があり、落ち着いた環境となっている。壁面には切り絵など季節感のある作品が展示され居心地良く過ごせるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配置はその都度考慮して決め、居心地の良い空間づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	お客様に合った居室環境を検討している。又、昔から使用している馴染みのものを持ってきていただけるようにしている。	居室の入り口に職員と一緒に作った塗り絵を飾り、自分の部屋が分かるよう目印にしている。部屋にはテレビ、位牌、暖簾等馴染みの物を持ち込み、自分らしく過ごせる工夫をしている。部屋は移動の安全も考慮し整理されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室やトイレが分かるように目印を作り、自由に動けるような環境が作れるように努めている。		